

1 国語科

『恋』という言葉を知って、人は初めて恋をする。』 ————— 国語を学ぶ意味とは？

好きな人の前に出ると胸がドキドキして息苦しくなったり、顔が赤くなったりした経験はありませんか。「好き」といっても、家族や友人が「好き」なのとも、ケーキが「好き」なのとも違う、あの奇妙な感覚。そんな時、「私はあの人に恋をしているのだ」と思えるのは、「恋」という言葉を知っているからです。もし知らなかったとしたら、あなたは自分の感情を心の中でどう片付けてよいかかわらず、きっと混乱するに違いありません。「恋」という言葉によって、感情に命が吹き込まれ、あなたの心の中の世界の一部になるのです。

もう一つ例を挙げてみます。通学途中の道端で、一匹の犬があなたに吠えかかりました。あなたはきっとその声を「ワン」と聞いたことでしょう。でもその同じ声は、アメリカ人には「バウ」と聞こえるはずで、そして同じ日本人でも、江戸時代までの日本人には「びよ」と聞こえていたのです。古今東西で、犬の鳴き声が違っているのではありません。人間の耳の構造が違っているのでもありません。犬の鳴き声を表す「言葉」が違っているのです。言葉が違うということは、「心」が違うということ、「文化」が違うということです。

こうやって人は、身の回りの事物や自分の感情など、ありとあらゆる対象を「言葉」によって位置づけ、それによって造り上げられた世界で生きているのです。話したり書いたりするだけでなく、人は言葉によって考えているのです。言葉は表現の手段であると同時に理解の手段でもあります。言い換えれば、「言葉を学ぶ」ということは、「物事を深く考える、その方法を学ぶ」ということなのです。日本で生活していれば、日本語を話したり聞いたり書いたりする能力は、自然に伸びてくるでしょう。しかし、それだけでは「学ぶ」ことにはなりません。自らをとりまく世界を深く理解しよう、という明確な意識を持って「言葉」を考える、これが一女の国語の授業です。

浦和一女国語科3年間の目標

- 1 古今の名作、および社会事象や人間の内面世界の本質について、言語を通して豊かに感じ取り深く考え理解し、自己という主体を通して表現できるようになる。
- 2 「わかる」ことと「わからない」こととを明確に区別し、「わかる」ことにより自分が「かわる」経験を積み重ね、豊かな人格に裏打ちされた知的世界を作り上げよう。



香爐峯（こうろほう）の雪は簾（すだれ）を撥（かか）げてみる『枕草子』

高校一年生で学ぶ「国語総合」には、現代文、古文、漢文の三つの領域が含まれています。それぞれの領域の特色と学習方法について紹介しますので、勉強の際の参考にしてみてください。

《現代文》

◇特色

現代文は、近代（明治時代）以降の優れた文章（論理的な文章・文学的な文章）を教材とします。あらゆる分野の学習の基礎となる重要な科目です。

◇学習方法

ア 日頃から、社会のあらゆる問題に関心を持つ。新聞はできるだけ多くの記事に目を通す。時間がない場合は見出しを読むだけでもよい。特に関心のある分野の記事については、切り抜いてスクラップブックを作るとよい。

イ 授業の予習としては、以下の3点。

- ・本文をゆっくり読み、大意をつかむ。
- ・意味や読み方のわからない語句を辞書で調べ、ノートに書き出しておく。
- ・内容的に理解できなかったことや疑問に感じたことをメモしておき、授業で質問する。

ウ 漢字のテキストについては、定期的の小テストが行われるので、日頃から練習しておくこと。

また、意味の分からない語句については、調べておくこと。

エ 一・二年生には、新書についての読書レポートを課す。読書の習慣を身につけ、特に評論に多く触れることは、論理的な思考力を養うために重要である。

- ・本書巻末にとじ込まれた用紙を、各回ごとに切り離して提出すること。
- ・本書巻末の推薦図書一覧を参考にすること。

《古文》

1 万年前に星が放った光を今見ることができます。冬の夜空に煌めく「オリオン座」を形成する一つひとつの星は、それぞれ何年前の光を我々に届けているのでしょうか。果てしない宇宙空間において、それぞれの星はお互いに何年前の光を届けあっているのでしょうか。現代に生きる我々が古典を学ぶとは、地球上に生きる我々が星空を見上げるようなものかもしれません。「1万年前に星が放った光」は、1万年前と同じ輝きを持っています。時に隕石の衝突に遭って粉々に砕け散っても、その星くずは消えることなく新たな星を生む核となります。古人の智慧や思想は、どこかで混ざり合い影響しあい、現代に受け継がれているのです。古典を学ぶことによって、自分の位置を確かなものとし、人生を豊かにして行きたいものです。

◇特色

古文は、有史から江戸時代に至るまでの文学を学ぶ科目で、さまざまな時代を経て現代の日本人の精神や生活の中に流れているものを探り、新しい生き方の中にそれを活かしていくことを目的としています。

◇学習方法

ア 授業の予習としては、以下の3点。

- ・本文を音読する。独特のリズムに慣れるためにも、すらすら読めるようになるまで何回か練習する。
- ・ノートに本文を書き写し、本文を自力で現代語訳する。
- ・意味や読み方のわからない語句を辞書で調べ、ノートに書き出しておく。最初は、単語の区切り方や辞書の引き方にもとまどうだろうが、できる範囲でやっておくとよい。

イ 授業中は黒板に書かれたものだけでなく、口頭で説明されたことや疑問に感じたことなど、必要に応じてメモをとる習慣をつけること。

ウ 授業を受けた後は、短時間でも必ず復習の時間を持ち、学んだことをもう一度確認すること。

エ 重要古語（現代語にないものや意味が違うもの）は、単語帳を作るなどして覚えること。

オ 文法事項は、副教材などで確認すること。特に動詞・形容詞・形容動詞・助動詞については、一年時にマスターしておくことが大事。『古典文法必修ノート』については、定期テストの際に出題される。

年度当初に年間の出題範囲が示されるので、家庭で計画的に学んでおくこと。

カ 『図説国語』などを通して、当時の風俗・習慣等の社会的背景に関する知識を豊富にするように努めること。

《漢文》

◇特色

漢文には、中国の広大な自然や悠久の歴史がリズムカルに描かれています。見た目には堅苦しく、わかりにくい文章のように思われるかもしれませんが、おらかな表現の中に歴史と思想・ロマンと郷愁がきめ細やかに表出されています。学習にあたっては、特に基礎的事項を確実にマスターするように心がけて下さい。

◇学習方法

ア 授業の予復習のしかた・ノートの使い方は、古文と同じ。特に漢文には、「返り点」を用いた独特の読み方（これを「訓読」という）があるので、これに慣れることは最も重要である。

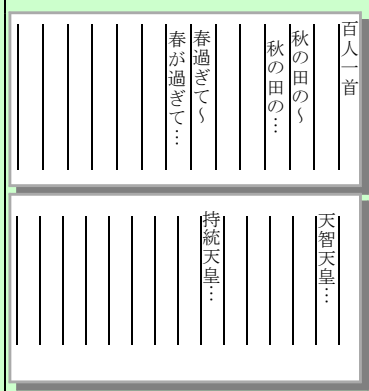
イ 訓読のきまりについては、一年時の前期にマスターしなければならない。授業の予復習以外にも副教材の『新明説漢文』などを利用して、完全に習得できるように心がけること。なお、『新明説漢文』も古文の『古典文法必修ノート』と同様に定期テストの際に出題される。

ウ 授業で扱われた基本的な句法（受身・使役・反語など）は覚えるようにする。

エ 『図説国語』などを利用して、歴史的（時代的）・地理的な知識を豊富にするように努める。

特に授業で扱われた作品については、その成立時代・著者・内容・特色などを理解しておくこと。

ノートの使い方（例）必ず見開き縦書きで



- ①本文を2～3行おき書き写す
- ②語句の意味など予習して現代語訳を書き込む
- ③授業中に説明などを書き込む

☆漢文も同様